

「山」と「農」の暮らしの原点

元山村留学指導員 野高 健司

神奈川から信州、そして青森へ

神奈川県小田原市に生まれ育った私は、身近な丹沢や箱根の山々から、富士山、南アルプス、北アルプスへと行動の範囲を広げていくうちに、すっかり山に魅せられてしまいました。育てる会に入職してからも、自身の山への情熱が冷めることはありませんでした。

こうして北アルプスのお膝元で公私ともに充実した生活を送っていた私は、育てる会と八坂から離れることなど、まったく考えていませんでした。ところが、自身も親も年を重ねてくると、まだまだ遠い先のことだと思っていた家の将来の課題が目の前に迫ってきました。私の父親の実家も家内の実家も農業を営んでいます。家内の実家は将来的に断念せざるを得ないことが目に見えていたのです。しだいに「自分たち家族には守るべきことがあるのではないか」

と思うようになり、四年前に意を決して育てる会と八坂を離れ、家内の実家である青森に移り住むことになったのです。

私の祖母は「農家だけにはなるな。こんなに割に合わない仕事はないから。」とよく私に言ったものです。ですから、農業で生活する厳しさは百も承知でした。今頃、亡くなった祖母は、天国から私たち家族の姿を見て、きっと苦笑いをしていることでしょう。でも、私は幼いながらも、腰を曲げて働く祖母の姿、生き方が尊いものだと感じていたような気がします。

農業との「複業」、登山ガイド

農業を補完する仕事として志したのが登山ガイドでした。以前は「自身の登山を純粹に楽しみたい」と思っていました。が、「残り限られた人生を悔いなく生きるには」と考えると、答えは一つしかありませんでした。一念発起し、受検、資格取得をして、青森に移り住んですぐに登山ガイド業に携わるようになりました。

私がガイド業をしているのは、主に、白神山地しらかみさんち、岩木山いわきさん、八甲田山はっこうださんなど、北東北の山域です。このエリアの山々は、古くから人と山との関わりが強く深いことで知られています。とりわけ、屋久島と並んで日本で最初に世界自然遺産に登録された白神山地は、マタギ*の歴史や文

化を抜きに語ることは出来ません。白神山地は、「世界最大のブナ原生林」であるだけでなく、そこに「人と山の繋がり、共生」が脈々と受け継がれてきたところに大きな特徴があります。

もし、私自身に、育てる会での仕事、八坂での暮らしの経験がなかったら、そんなことを語る自分のことには、自信も説得力もなかったことでしょう。でも、二十年という歳月の中で、農家の方々や地域の方々から、計り知れないたくさんのことを学ばせてもらいました。山の中で暮らす醍醐味、楽しさ、清々しさ、苦勞、尊さ。こういった様々な経験が、いまガイド業を行ううえで私の大きな糧となっています。

育てる会、八坂と志とともに

一昨年、八坂で十期前の同窓会がありました。そのとき、音楽大学に通う修園生が、「ベートーヴェンの田園を演奏する時に思い浮かべるのが、八坂のセンターから見下ろす棚田なんです。」と言って、フルートを演奏してくれました。実際に田んぼに入って四季折々様々な経験をし、毎日その田んぼを見ながら登校した彼女が奏でる音色は、私たちの心に染み入る温かいものでした。

人が何に幸せや喜びを見い出すのかは十人十色ですが、私は、自然の中で味わう感動、喜びは純粹で偽りが無いし、子ども時代にこういった感情を育むことがその人の人生を豊かにす

る、と固く信じています。子ども時代に味わった自然の中の心地よさ、楽しさ、爽快感は、何歳になっても色褪せることはありません。これは、育てる会で働いていたときから山のガイドをしている現在まで、変わらず持ち続けている自分の信念です。

同窓会でのこのエピソードは、そんな自分の信念が目の前で具現化されたわけですから、いつまでも忘れることのできない私の一生の宝物になると思います。

私はいま、こうして育てる会と八坂から離れて暮らしていますが、きっとこれからも志を共に生きていくのだと思います。そして、育てる会と八坂は、いつまでも私の心のふるさと、よりどころであり続けることでしょう。

*マタギ…東北地方の山岳地帯で、特殊な伝承や猟の方法を持つ猟師。

のだか・けんじ

育てる会元職員。1995年から20年間、八坂美麻学園勤務。2014年に退職、青森に移住し、登山ガイド業と農業に従事。日本山岳ガイド協会公認登山ガイド、北東北山岳ガイド協会、白神山会所属。東京都山岳連盟、雪標山岳会会員。里山から雪山まで四季を通じて登山ガイド業を行う。